

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 平成27年8月7日

【四半期会計期間】 第65期第1四半期(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

【会社名】 株式会社四電工

【英訳名】 YONDENKO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 家高 順一

【本店の所在の場所】 香川県高松市花ノ宮町2丁目3番9号

【電話番号】 087-840-0230(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高田 忠員

【最寄りの連絡場所】 香川県高松市花ノ宮町2丁目3番9号

【電話番号】 087-840-0230(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高田 忠員

【縦覧に供する場所】 株式会社四電工徳島支店  
(徳島県徳島市中前川町5丁目1番地115)

株式会社四電工高知支店  
(高知県高知市棧橋通2丁目2番25号)

株式会社四電工愛媛支店  
(愛媛県松山市六軒家町1番13号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第1四半期 連結累計期間	第65期 第1四半期 連結累計期間	第64期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	13,571	13,813	73,028
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	108	157	2,372
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失( ) (百万円)	57	124	976
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	173	605	2,183
純資産額 (百万円)	41,354	43,569	43,161
総資産額 (百万円)	65,659	71,490	74,839
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( ) (円)	1.46	3.17	24.87
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.0	60.9	57.7

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、第65期第1四半期連結累計期間においては、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載していない。また、第64期第1四半期連結累計期間及び第64期においては、潜在株式が存在しないため記載していない。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

4. 「企業結合に関する企業会計」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としている。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

(注) 「第2 事業の状況」に記載している金額には、消費税等は含まれていない。

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

なお、当第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」、「四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純損失」としている。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や住宅投資が持ち直しており、雇用も総じて良好となるなど緩やかな回復の動きが続いており、四国地域においてもほぼ全国と同様の状況で推移した。

こうした中、当社グループは、全力をあげて業績の確保に努めた結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は13,813百万円(前年同四半期比1.8%増加)となり、営業損失は307百万円(前年同四半期は営業損失3百万円)、経常損失は157百万円(前年同四半期は経常利益108百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は124百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益57百万円)となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

なお、前第3四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいている。

(設備工事業)

当建設業界においては、民間の設備投資や住宅投資が増加傾向となる一方、公共投資が前年に比べ減少したことに加え、原材料費の値上がりによる工事原価の高まりや労働者不足など厳しい状況も続いた。

こうした中、大型工事の工事進捗により増収となったものの、本店移転新築等に伴う販売費及び一般管理費の増加により、完成工事高は14,856百万円(前年同四半期比15.1%増加)、セグメント損失は171百万円(前年同四半期はセグメント損失74百万円)となった。

(リース事業)

連結子会社(株)ヨンコービジネスが、工事用機械、車両、備品等のリース事業を行っている。

事業環境が厳しい中、新規顧客の開拓に注力する一方、与信管理の徹底などコスト低減に努めた結果、売上高は758百万円(前年同四半期比5.6%増加)、セグメント利益は77百万円(同0.1%増加)となった。

(太陽光発電事業)

当社及び連結子会社(株)ヨンコーソーラーが、太陽光発電事業を行っている。

販売電力量は堅調に推移したものの、建設中の発電所用地に係る賃借料の影響などにより、売上高は86百万円(前年同四半期比126.3%増加)、セグメント損失は31百万円(前年同四半期はセグメント利益4百万円)となった。

(その他)

CADソフトウェアの販売、指定管理業務を中心に、その他の売上高は190百万円(前年同四半期比11.1%減少)、セグメント利益は4百万円(同66.4%減少)となった。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発活動の金額は、設備工事業において1百万円であり、当該金額には受託研究にかかる費用0百万円を含めている。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(4) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に完了したものは、次のとおりである。

(設備工事業)

会社名 名称 (所在地)	投資金額(百万円)				備考
	建物・ 構築物	機械、運搬具 及び 工具器具備品	土地	合計	
(株)四電工 本店移転新築 (香川県高松市)	2,038	150	1,122	3,310	平成27年6月移転 (延床面積：6,029m <sup>2</sup> )

(太陽光発電事業)

会社名 名称 (所在地)	投資金額(百万円)				備考
	建物・ 構築物	機械、運搬具 及び 工具器具備品	土地	合計	
(株)ヨンコーソーラー もみの木 サンシャインパーク (香川県仲多度郡 まんのう町)	51	585	-	637	平成27年6月完成 (発電出力：2,380kW)

当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設計画は、次のとおりである。

(太陽光発電事業)

名称 (所在地)	内容	発電出力 (kW)	備考
サンシャインパーク佐川 (高知県高岡郡佐川町)	太陽光発電設備	12,005	平成29年7月完成予定
サンシャインパーク加茂 (香川県坂出市)	太陽光発電設備	1,371	平成28年7月完成予定

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略上の対応方針

当社グループの事業に関して、業績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクは、以下の事柄があると認識している。

主要取引先である四国電力株式会社の設備投資の動向  
一般建設投資の動向(建設市場の状況、競争環境など)  
完成工事原価の変動(材料価格、労務費など)  
取引先の倒産等による債務不履行  
退職給付債務の変動(年金資産の運用利回りなど)  
投資有価証券の価格変動(金利、株価など)  
法的規制(法令改廃、行政処分など)

当社グループは、これらの想定される事業リスクについて、影響度と顕在化の可能性の観点から分類した上で対応方針を策定しており、リスク顕在化の未然防止を図るとともにリスク発生時の影響を最小限に留めるような確な対応に努める所存である。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	40,638,675	40,638,675	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株である。
計	40,638,675	40,638,675	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年6月30日	-	40,638,675	-	3,451	-	4,209

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,391,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,574,000	38,574	-
単元未満株式	普通株式 673,675	-	1単元(1,000株)未満株式
発行済株式総数	40,638,675	-	-
総株主の議決権	-	38,574	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が150株及び当社保有の自己株式が930株含まれている。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社四電工	高松市花ノ宮町2丁目3番9号	1,391,000	-	1,391,000	3.43
計	-	1,391,000	-	1,391,000	3.43

2 【役員の状況】

該当事項なし。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成27年 6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	3,273	2,830
受取手形・完成工事未収入金等	17,286	10,053
リース投資資産	2,713	2,692
有価証券	6	608
未成工事支出金	2,349	2,987
その他のたな卸資産	1,531	1,469
その他	9,327	9,048
貸倒引当金	84	114
<b>流動資産合計</b>	<b>36,405</b>	<b>29,575</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物・構築物	15,783	17,843
土地	11,582	11,737
その他	14,977	15,667
減価償却累計額	17,795	17,968
<b>有形固定資産合計</b>	<b>24,548</b>	<b>27,280</b>
<b>無形固定資産</b>		
その他	322	322
<b>無形固定資産合計</b>	<b>322</b>	<b>322</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	10,615	11,316
その他	2,976	3,023
貸倒引当金	28	28
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>13,563</b>	<b>14,311</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>38,434</b>	<b>41,914</b>
<b>資産合計</b>	<b>74,839</b>	<b>71,490</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	11,307	7,636
短期借入金	280	280
未払金	2 7,147	2 6,997
未払法人税等	943	89
その他	4,703	5,232
流動負債合計	24,380	20,236
固定負債		
長期借入金	4,439	4,590
役員退職慰労引当金	3	4
退職給付に係る負債	1,992	1,960
その他	861	1,128
固定負債合計	7,297	7,684
負債合計	31,677	27,920
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,451	3,451
資本剰余金	4,221	4,221
利益剰余金	33,456	33,135
自己株式	642	643
株主資本合計	40,487	40,164
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,505	2,258
退職給付に係る調整累計額	1,169	1,145
その他の包括利益累計額合計	2,674	3,404
純資産合計	43,161	43,569
負債純資産合計	74,839	71,490

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	12,903	13,079
その他の事業売上高	667	733
売上高合計	13,571	13,813
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	11,616	11,813
その他の事業売上原価	547	644
売上原価合計	12,164	12,458
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	1,286	1,266
その他の事業総利益	120	89
売上総利益合計	1,406	1,355
<b>販売費及び一般管理費</b>	1,410	1,662
営業損失( )	3	307
<b>営業外収益</b>		
受取利息	18	16
受取配当金	33	69
物品売却益	39	36
不動産賃貸料	25	27
その他	3	5
営業外収益合計	120	154
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1	3
弔慰金	5	-
その他	1	1
営業外費用合計	7	5
経常利益又は経常損失( )	108	157
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	3	0
固定資産除却損	0	3
特別損失合計	3	4
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	105	162
法人税等	47	37
四半期純利益又は四半期純損失( )	57	124
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	57	124

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	57	124
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	139	753
退職給付に係る調整額	22	23
その他の包括利益合計	116	730
四半期包括利益	173	605
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	173	605
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。) 及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、 当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更した。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更する。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っている。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っている。</p> <p>企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用している。</p> <p>なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額は無い。</p>	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	
税金費用の計算	<p>税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっている。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
(株)宇多津給食サービス	355百万円	(株)宇多津給食サービス	349百万円
(株)大洲給食PFIサービス	109百万円	(株)大洲給食PFIサービス	109百万円
(株)仁尾太陽光発電	493百万円	(株)仁尾太陽光発電	794百万円
(株)桑野太陽光発電	487百万円	(株)桑野太陽光発電	478百万円
計	1,446百万円	計	1,731百万円

2 未払金のうち、ファクタリングシステムによる営業上の取引に係る債務は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
	6,221百万円	5,678百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	327百万円	359百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	196	5	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	196	5	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	設備工事業	リース事業	太陽光発電 事業	計				
売上高	12,904	717	38	13,660	214	13,874	303	13,571
セグメント利益 又は損失( )	74	77	4	8	14	22	25	3

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、CADソフト販売、指定管理業務、工事材料の販売等を含んでいる。

2. 売上高及びセグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間の内部取引消去等である。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	設備工事業	リース事業	太陽光発電 事業	計				
売上高	14,856	758	86	15,700	190	15,891	2,078	13,813
セグメント利益 又は損失( )	171	77	31	125	4	120	186	307

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、CADソフト販売、指定管理業務、工事材料の販売等を含んでいる。

2. 売上高及びセグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間の内部取引消去等である。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っている。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「太陽光発電事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更している。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られる。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	1.46円	3.17円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失( )(百万円)	57	124
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(百万円)	57	124
普通株式の期中平均株式数(千株)	39,261	39,248

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第1四半期連結累計期間においては、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載していない。また、前第1四半期連結累計期間においては、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【その他】

該当事項なし。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年8月4日

株式会社 四 電 工  
取 締 役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 中 田 明

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 久 保 誉 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社四電工の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社四電工及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。